

むつみ

第57号 2011. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目 次

年男・年女

「地域を活かす地域循環 生産と消費の相互信頼」

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1	水土里ネット猪苗代	高橋 二三雄	22	22
新しい年を迎えて	福島県土地改良事業団体連合会	2	(水土里ネット福島)	杉内 勝成	23	
第三十四回総会及び業務研修会	福島県土地改良団体職員連絡協議会	3	激動の勤続40年を顧みて	水土里ネット福島	24	
会員のみなさんお世話になりました	福島県土地改良団体職員連絡協議会	7	今思うこと	会津宮川土地改良区	24	
前会長 柳内 喜久子	前会長 柳内 喜久子	8	出会いは財産	阿賀川土地改良区	24	
永年勤続表彰	佐竹 孝	9	年男になつて思うこと	磐城小川江筋土地改良区	25	
「21世紀土地改良区創造運動」	会津大川土地改良区	10	はじめまして	矢吹原土地改良区	26	
「勤続十年を迎えて」	棚倉町土地改良区	11	決意表明!	酒井 勇司	26	
二十年を振り返つて	会津大川土地改良区	11	矢吹原土地改良区	田中 拓	26	
出逢いは一生の宝物	千軒平溜池土地改良区	11	水土里ネット福島	橋本 晴美	27	
「勤続十年を迎える」	安積疏水土地改良区	12	土地改良区職員として	会津若松市湊土地改良区	27	
第三十三回全国土地改良大会	細谷 宣明	13	土地改良区の職員となつて	鈴木 けい子	27	
支部だより		15				

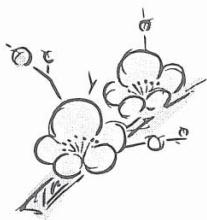
表紙写真

ふくしま むらの輝き2009 写真コンテスト

最優秀作品

共同作業

中村 ミツ子さん(福島市)



新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 永 峯 真

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健勝で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年の第三十四回総会は来賓のご臨席を賜り、浪江町「福島いこいの村 なみえ」を会場に開催されました。二十一名の永年勤続者表彰を受賞された皆様には敬意を表すとともににお祝いを申し上げる次第であります。

引き続き行われました議事につきましても、役員の改選を含め、全議案ともに皆様のご支援により満場のご承認を頂きました。

申し遅れましたが、私はこの総会において柳内前会長の後任として会長に選任されました会津宮川土地改良区の永峯と申します。浅学非才の身であり、歴代会長の足許にも及ぶべくもなく、今更ながら責任の重大さを感じているところでありますが、同じく選任されました役員の皆さんと協力し、併せて会員の皆様の絶大なお力添えを頂き、任期を全うしたいと思いますのでどうかよろしくお願ひ申し上げます。

また、本協議会では会員の皆様の参加を募り、県外先進地区研修を実施して参りましたが、参加者の確保や財源的な理由によりまして隔年で実施することと致しました。平成二十三年度は実施年に当たりますので、ご案内の文書が届きましたならば是非ご参加くださるようお願い致します。

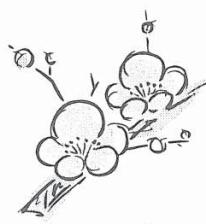
昨年は、例年ない猛暑のため高温障害などにより米の品質低下、減収となつた上に価格も低迷し、稻作中心の地区では農業収入が目減りしたことで賦課金納付への影響が懸念されたかと思います。

また、農業農村整備事業予算・土地改良事業予算は大幅な減額となり、多くの地区が採択を見送られるなど組合員の要望にお応えすることも困難な状況となっており、食料自給率の向上や食の安全保障が確保されるのか、土地改良に携わる皆さんは事業展望に危機感を抱いていると思います。

更に、TPPの問題も産業の種別により賛否の分かれることですが、農業生産額の占める割合は僅かに1.5%程度かもしませんが、それが日本の大國保全、景観・環境保護に大きな役割を果たしていることは間違いないことです。

農業農村を取り巻く環境は一層厳しさを増しておりますが、我々土地改良区職員は情報を共有し、組合員の利益のためともに協力と努力をして参りましょう。それが職員の利益にもなるはずです。

最後になりますが、柳内前会長をはじめ、本協議会役員を退任された皆様のこれまでの協議会へのご貢献に深く感謝を申し上げるとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げ、併せて会員の皆様にとって輝かしい一年となりますことをご祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。



新しい年を迎えて



みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 茂木功一

また、本会が会員支援として役割を發揮するためには、我々が強みとするものは何か、我々がうまくやっているものは何か、我々がうまくやれるものは何か、そして、今ある強みを如何なる分野で増強すべきか、新しい強みを如何なる分野で獲得すべきか。その為に、今日、何をなさるか、また、何をなすべきか、を全ての職員と一丸となつて考えて行きたいと思います。

話は替わりますが、昨年の年末に唐突に土地改良区や土地連の存在意義にも関わる話しが新聞紙上に現れました。「土地改良区の業務について地方自治体や民間に委託推進するなどの」改革案が政府の行政刷新会議が設置した規制・制度改革分科会の農林・地域活性化ワーキンググループで大筋了承されたというものです。(日本農業新聞)

あけましておめでとうございます。二〇一一年、新しい年が始まりました。本年もよろしくお願ひ致します。

さて、今年の干支は「卯年」です。卯年は子年に蒔いた種が、丑年に芽を出し、寅年にはその芽が勢いよく伸び始め、卯年にはその芽が若葉となり成長していく年だそうです。

たくさんの枝葉が伸びることから競争が激しくなるともされますが、全体的に見れば新たなる活気が生まれてきますから、新しいことに挑戦したり、区切りをつけ心機一転頑張るのに適した年と言えるのだそうです。

本会も一昨年、設立五十周年を祝いましたが、周囲の状況が非常に速く変化しているにも拘わらず、一つのコンセプトで五十年を過ごすのは無理があります。「会社の寿命三十年」と言われる中にあって、老舗と言われる会社が生き残ってきたのは、その時代々々の変化に柔軟に対応してきた結果であろうと考えます。

私は、土地連のこの一年を、マンネリを打破し、従来のコンセプトを一から見直しし、農地情報等の新たなツールを農業農村振興施策推進のツールとして育っていく年にしたいと考えています。

最後に、今年は暦では辛卯の年であり、新しいものを生み出すのに適した年だとされていますが、生みの苦しみは相当なものであることを覚悟しながら、かつ、我々を取り巻く環境は例年にも増して極めて厳しい状況にあることを皆さんとの共通認識として、今年も頑張って行きたいと思いますので、御協力の程、よろしくお願ひ申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

第三十四回総会及び業務研修会

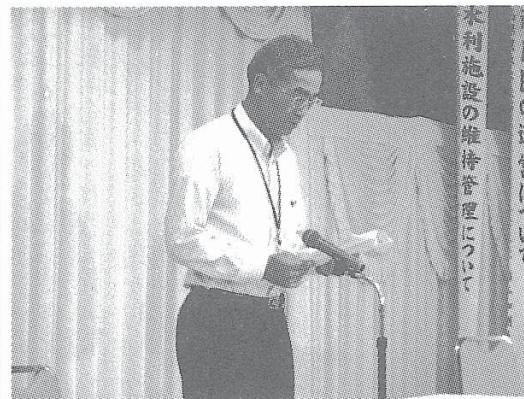
第三十四回総会



表彰



来賓祝辞：茂木専務理事



来賓祝辞：柳田部長



議長：佐藤氏

永峯副会長（会津宮川土地改

表彰式後、福島県相双農林事
受賞者の皆様のますますのご
活躍をお祈りいたします。

表彰された方々は別表のとお
りです。

福島県土地改良団体職員連絡
協議会第三十四回総会は、平成
二十二年七月十四日(水)午後一時
三十分から浪江町「福島いこい
の村なみえ」において開催され
た。

良区）の開会宣言、柳内会長（小
川町土地改良区）の挨拶の後、
永年勤続表彰が行われ、表彰状
の授与及び記念品が贈呈され
た。

務所農村整備部長柳田敏雄様、
福島県土地改良事業団体連合会
専務理事茂木功一様より来賓祝
辞をいただいた。
議長に請戸川土地改良区の佐
藤征一氏が選出され、挨拶後、
議事に入った。

議案第1号「平成21年度事業
報告について」、議案第2号「平
成21年度収支決算承認につい
て」が一括議題として出され、
事務局の説明、橋本一也代表監
査員（安積疏水土地改良区）の
監査結果報告の後、原案どおり
承認された。

議案第3号「平成22年度補正

議を終了した。

予算（案）について」、議案第

4号「平成23年度会費・協賛金

の額及び徴収方法（案）につい

て」、議案第5号「平成23年度

事業計画（案）」、議案第6号「平

成23年度収支予算（案）につい

て」は事務局の説明後、いずれ

も原案どおり承認された。

次に、議案第7号「役員の改選について」は事務局より役員候補者案の提示があり、会津方部新役員について会津方部役員の協議の後、提示された事務局案の方々が選任された。会長・副会長及び代表監査員の互選会が行われ、会長に会津宮川土地改良区の永峯眞さん、副会長に安積疏水土地改良区の遠藤正一さん、そうま土地改良区の遠藤喜雄さん、土地連の小林剛さん、代表監査員に阿賀川土地改良区の赤崎政司さんが選任された。

新旧会長の挨拶の後、議案審

す。

※新役員は別表のとおりで

福島県土地改良団体職員連絡協議会役員名簿

(平成22年度～23年度)

総会は、遠藤副会長（安積疏水土地改良区）の閉会宣言により終了した。



役職	氏名	所属	方部
会長	永峯 真	会津宮川土地改良区	会津
副会長	遠藤 正一	安積疏水土地改良区	県中
幹事	小林 剛	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	県北
幹事	渡辺 浩彰	大玉土地改良区	県北
幹事	森田 多恵子	母畑地区土地改良区	県中
幹事	山寺 一	社川沿岸土地改良区	県南
幹事	武田 博之	矢吹西部土地改良区	県南
幹事	鈴木 衛	会津若松市湊土地改良区	県南
幹事	高笠 喜市	会津北部土地改良区	県北
幹事	佐藤 亨	猪苗代町土地改良区	
幹事	後藤 学	高郷土地改良区	
幹事	渡部 康徳	請戸川土地改良区	
幹事	菅波 孝光	福島県土地改良事業団体連合会	
幹事	坂内 隆芳	福島県土地改良事業団体連合会	
幹事	渡辺 強	福島県土地改良事業団体連合会	
監査員	橋本 政司	阿賀川市土地改良区	
監査員	赤崎 雄司	千軒平溜池土地改良区	
監査員	船生 正一	須賀川市土地改良区	
浜通り	中通り	会津	土地連

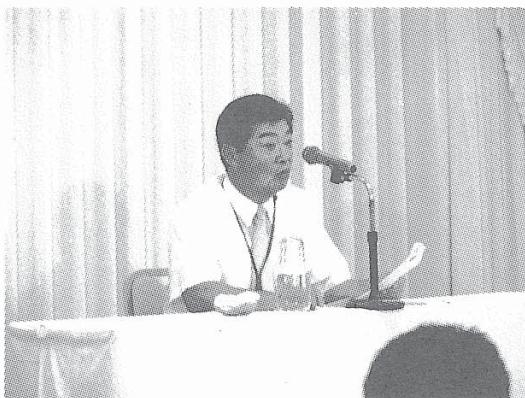
業務研修会

総会終了後、業務研修会が行われた。

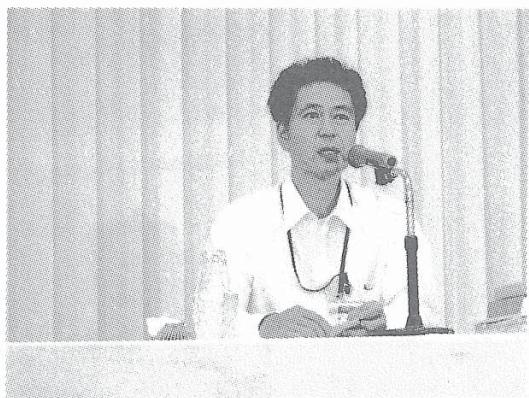


東邦銀行 大槻氏

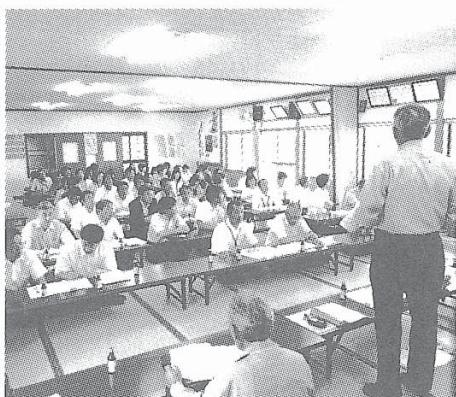
東邦銀行法人営業部業務役大槻隆氏より「金融機関の農業参入について」、福島県農林水産部農村計画課橋本和則主任主査より「農地有効利用支援整備事業について」、水土里ネット福島環境整備部坂内隆芳部長より「農業用水利施設の維持管理について」講演をいただいた。



水土里ネット福島 坂内氏



農村計画課 橋本氏

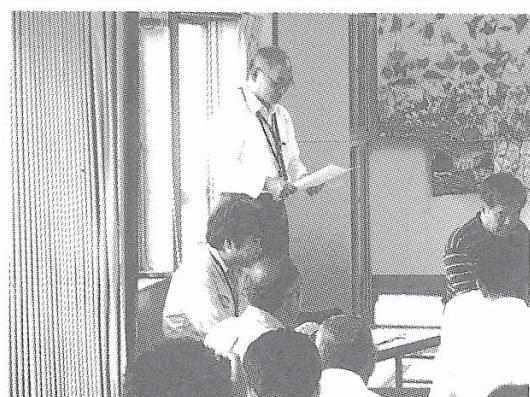


研修の様子

二日目の現地研修は、請戸川土地改良区大井塚原地区の「ほ場整備を契機とした集落営農について」研修した。



大井塚原地区県営ほ場整備事業促進委員会 西委員長



請戸川土地改良区佐々木事務局長

業務研修会アンケート結果(受講者 77人)

回収率 40人 52%

○この研修会の開催時期について

- | | |
|------------|----------------|
| 1. ちょうど良い | <u>39人</u> 98% |
| 2. 別の時期がよい | <u>1人</u> 2% |
- (6月中旬)

○研修内容はいかがでしたか

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 大変参考になった | <u>24人</u> 60% |
| 2. ふつうである | <u>16人</u> 40% |
| 3. あまり参考にならなかった | <u>0人</u> |
- (理由はどんな点ですか)

○今後、どのような内容の研修を受けてみたいと思いますか。具体的にお書き下さい。

- ・農業水利施設の維持管理について
- ・維持管理計画書についての詳しい研修
- ・土地改良区の今後の運営、土地改良区がかかえている問題について
- ・県外の土地改良区の状況
- ・土地改良に関係のない話しかも1つ位入れた研修
- ・定款・規約・規程など
- ・耕作放棄地について
- ・土地連を窓口としている法律相談の具体的な内容について(できる範囲内)
- ・未収賦課の対策・滞納処分等について
- ・未収金対策・回収事例について
- ・経営体育成基盤整備について

○その他、感想要望等ありましたらご記入下さい。

- ・会場内が暑かった。(適温にしてほしい)
- ・研修の講師の方にも意見交換会に参加して頂きたかった。
- ・タイムリーな研修会も検討してほしい。
- ・職員の体験談、苦労話等の講話などを入れてはどうか。
- ・業務研修は2個でよいのではないか。
- ・質疑の時間を充分考慮してほしかった。

☆会員の皆さんお世話になりました☆



福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 柳 内 喜久子

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には、良き新しいお年の新春をお迎えになられたことを心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は第34回総会を7月14日に「浪江いこいの村」に於いて開催いたしました。

永年勤続者表彰をご来賓のご臨席のもと行えましたことは、本協議会の喜び励みとなります。

又、会員様方に於いて益々ご精励下さいますようご祈念申し上げます。

私もこの総会が最後となり会長の職を2年間務めさせて頂き全うすることができましたことは会員の方々の御協力のもと、支えられてきました事厚くお礼申し上げます。

“光陰矢の如し” 日日のたつのは早いもので、職員連絡協議会の役員を十数年務めさせて頂き振り返れば走馬灯のように懐かしく思い出します。

県内一環として職員のコミュニケーション交流の場として職員連絡協議会の研修はそのような場でありますので、会員の皆様方、極力参加し活性化のある連絡協議会であって欲しいと願っております。

まだまだ農業を取り巻く状況は厳しいでしょう。

TPP等政府の政策がくるくる変動しておりますので会員の皆様は組合員の方々にご協力・ご支援そして土地改良区職員としてご活躍を願っております。

本当に長い間土地連事務局の方々の御協力又会員の皆様には一言では言い尽くせない程お世話になりました。

改めて会員の皆様役員の皆様に心から感謝と御礼を申し上げ、永峯会長におかれましても相変わらぬ御協力の程お願いし福島県土地改良団体職員連絡協議会の益々のご発展と御活躍と御健勝をお祈り申し上げ挨拶にさせて頂きます。

永年勤続者表彰

三十年勤続

安積疏水土地改良区

遠藤正一

安積疏水土地改良区

助川英樹

会津大川土地改良区

佐竹本一也

福島県土地改良事業団体連合会

朝倉幹夫

福島県土地改良事業団体連合会

鈴木浩

安積疏水土地改良区

佐竹伸光

戸ノ口堰土地改良区

大桃智子

雄国山麓土地改良区

佐藤貴子

会津大川土地改良区

大竹和久

そうま土地改良区

青田幸子

四時川沿岸土地改良区

下山田とみ子

井上用水堰土地改良区

小宅義孝

福島県土地改良事業団体連合会

櫻井純

福島県土地改良事業団体連合会

石幡佳信

千軒平溜池土地改良区

人見嘉一

十年勤続

安積疏水土地改良区

細谷宣明

棚倉町土地改良区

斎藤克憲

会津東部土地改良区

添田啓子



「21世紀土地改良区 創造運動」

会津大川土地改良区

佐 竹 孝

永

年

勤

続

るのか、負担も大変だろうと疑心暗鬼でした。

しかし、組合員以外に地域住民にも水土里ネットと土地改良施設の役割を説明することにより事業の推進や賦課徴収率も上がるのかと思いながら土地改良事業プラス21世紀創造運動に積極的に本改良区でも推進することになりました。それには、理事会、総代会で議案として上程し職員だけではなく、役員総代の理解も得ながら取り組むことになりました。

「家の廻りの水はどこから来るの?」「水路の水はどうやって使われるの?」と子供達の素朴な疑問に答えた時、納得した素直な目を見ると改めて水土里ネットのPR活動の重要性、継続していくことの大切さを痛感しました。

今から八年前「21世紀創造運動とは何だろう」と思い、関係機関から指導を受けながら取り組んできました。当初は、水土里ネットの本来の仕事（維持管理事業、各種補助事業、賦課徴収等）から外れてプラスにな

した。また、社会授業の一環で環境問題をテーマに学習し、その中では、水路の移り変わりを説明し段々軌道に乗ってきました。

さらに、職員みんなで考えて住民が気軽に参加でき、土地改良施設を案内しその際に水土里ネットの仕事内容や「この水はどこから来るの?」の疑問に答えられるよう努力しようと話し合いました。その結果、水土里ネット施設めぐり健康ウォーキングを毎年十月の第三日曜日に開催し今年で第七回目を数えることになりました。コースは、約七kmを白鳳山やせともの町を歩き、途中三つのポイントで土地改良施設の役割を職員がスタッフとして協力し、わかりやすく説明し、参加者から「なるほど土地改良区の役目は重要なんだ。」「家の廻りの水はここから来るのか」という声が聞こえるとやつて良かつたと思います。

こうした色々なPR活動を、子供介する機会を設けてもらうよう会津美里町と会津若松市の小学校の先生と協議し出前学習を実施しました。その他、小学校の周辺の水路に炭を敷いて、水質浄化の効果を体験させたり、歴史ある土地改良施設「うつろ堰」水路の体験学習等を行いま

み会等でフォローしてあげているのも事実です。



30年表彰を受賞する佐竹さん



勤続10年を迎えて

棚倉町土地改良区

齋 藤 克 憲

にやく御殿が建つとまで言われた土地柄でどこの農家もこんにゃくを大量に栽培し出荷していました。そして私の家もこんにゃくを栽培する農家でした。しかし、近年は海外からの輸入により価格が下落し、価格での対抗が出来ず収入や作付面積も大きく減少し、こんにゃく農家は減少の一途を辿っている現状で寂しい思いがあります。

この度は、勤続年数十年と言うことで表彰の榮に浴することとなりました。が、これまでの十年間に様々な方々にお世話になりながら今日を迎えたことに感謝申し上げる次第であります。

今回は勤続十年表彰をいただきましたことに当たり、土地改良区のある棚倉町の紹介と私の十年間の歩みを振り返つてみたいと思ふ筆を執りました。

私はいま茨城県との県境に近い東白川郡棚倉町にあります、棚倉町土地改良区に籍をおいております。棚倉町は昔からこんにゃく栽培が盛んな地域で価格も良い事から、こん

にやく御殿が建つとまで言われた土地柄でどこの農家もこんにゃくを大量に栽培し出荷していました。そして私の家もこんにゃくを栽培する農家でした。しかし、近年は海外からの輸入により価格が下落し、価格での対抗が出来ず収入や作付面積も大きく減少し、こんにゃく農家は減少の一途を辿っている現状で寂しい思いがあります。

現在はこんにゃくに変わりイチゴやブルーベリーやトマトの作付けが盛んになり栽培する農家が少しづつ増えてブルーベリーはジャムやドリンクとして商品化され消費者にも認知されつつあります。

棚倉町土地改良区は平成二年に社川土地改良区と棚倉土地改良区が合併し棚倉町土地改良区として誕生しました。合併して十年余りが経過した平成十二年四月に私が採用されました。このような合併の経緯は仕事をしている中で書類などを見て初めて知り採用される以前は土地改良区

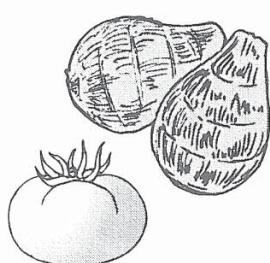
という団体は自分の中では漠然とした認識でしか知りませんでした。土地改良区は農業施設を管理している、或いは農地の区画整理を行つてているなど自分の頭に浮かぶのはそれくらいでした。

しかし、土地改良区に採用され業務に就いて土地改良事業の中味を自分で担当し仕事を行なう様になり、改めて土地改良区の存在意義や役割など様々な形で地域農業に果たす役割や重要性に気づいた次第です。

現在、職員は私を含めて二名で業務をおこなっています。今日は業務が多様化しており土地改良区の業務全般にわたり広く浅くではないですが、全てに対応しなくてはならないため、当初はなかなか覚えられず苦労した思い出があります。

私は仕事で失敗したり思うように問題が解決しない時には役員や組合員の皆さんに相談したり意見を聞いたりと幾度となく叱咤激励を頂き、今までこの仕事を続けてこられたと思います。特に苦情や要望などは組合員の皆さんから直接相談を受けたことが私たちの役目であり組合員の総意が土地改良区の事業に少しでも反映できればと考えております。

今日の土地改良区は新たな土地改良事業への取り組みはなかなか難しい現状にありますが、少しでも地域の農業振興に貢献出来るよう、これからも今の職務に全力を傾けて参ります。



最後になりましたが、会員の皆様の御多幸を御祈り申し上げます。
そして今年も宜しくお願ひいたします。

20年を振り返って

会津大川土地改良区

大 竹

幸

んとなく課の異動のような感じでした。役場職員クラブにも入会させていただきましたので、色々なイベントや職員の方達と毎年行われる職員研修旅行にも楽しく参加させていたいた事が、懐かしく思い出されます。

新年あけましておめでとうござい
ます。

私が土地改良区にお世話になつて二十一年が過ぎました。「えつ、まだ二十一年ですか。もっと前からいたじやないですか。」と言われます
が、以前は土地区画整理事業の仕事をしていました。土地区画整理事業は宅地の利用の増進を図る為に行う事業であり、土地改良区で行うのは農業農村を整備する事業なので、目的は違いますがどちらも土地に関しての仕事なので、抵抗無く勤めることが出来ました。

平成元年四月一日に合併前の北会津土地改良区のお世話になりましたが、それまでと同じ旧北会津村役場の中に事務所がありましたので、な

ム保全対策事業、県営農業用河川工作物応急対策事業、二十一世紀土地改良区創造運動等、多面的な事業に取り組み、土地改良区のPR活動にも職員五人体制で、お互いに協力しながら頑張っていますが、土地改良事業費は大幅に減額され、採択予定地区も採択を取り消され、組合員の皆様の要望に応えられないもどかしさがあります。

そんな私も、家に帰れば小学三年生の女の子と、幼稚園年長組の男の子のおばあちゃんです。休みの日は一緒に買い物や食事に出かけたりと楽しみも沢山ありますが、土地改良区で仕事をするのは、あと何年かです。ホッとすると寂しい気持ちと少し複雑ですが、やはり仕事をしている方が楽しいのかな……。

その後農業を取りまく情勢も変わり、事業の採択も厳しくなってきましたが、平成十五年に県営経営体育成基盤整備事業天満地区が採択になり忙しくなってきたのと同時に、平成十六年四月一日に現在の大川土地改良区と合併になり今日に至ります。

現在は会津南部地区国営造成施設管理体制整備促進支援事業、県営かんがい排水事業、新農業水利システム

出逢いは一生の宝物

千軒平溜池土地改良区

船 生 正 一

月日の経つのは早く今年も残すところあとわずかとなつて参りました。

大先輩に「おめえ土地改良区へこないか?」「土地改良区つてナアーに?」「こんな会話をしながら土地改良区にお世話になった平成十年四月一日でした。以来十二年あつと言った間に過ぎ、千軒平溜池を案内されたのがつい昨日の様に思い出されます。

さて昨今の農業情勢は非常にきびしいと良く言われますが、私は危機ととらえております。農業就業年齢の高齢化、担い手不足、当然おこり得る遊休農地の増大は、自然環境を破壊し、熊にも猿、イノシシまでにも馬鹿にされる時代に成つて参りました



10年表彰を受賞する船生さん

平成十九年～二十六年 大久地区

九十三ヶ完了予定

平成二十三年～ 大野第二採択予定

二十七ヶ

現在大野地区推進中、四行政区百三十ヶタールほ場整備事業について

は五人～三人ではどうにもなりません。よき職場に良き同僚、そして良き仲間、必要とされる時代のめぐり合わせ……があつたからこそと思い万人の出逢いを一生の宝物と心の支えに今後も一日一日を大切に生きて見たい。また今度県土連職協会より永年勤続の栄えある表彰を受けましたが、まだまだその段にはほど遠く私で良かつたのかな?

これを機にもう一回心を引き締めて微力ではありますが、地域そして仲間のためにがんばります。よろしくお願い申し上げます。

表題にもありますように、この度、安積疏水土地改良区に籍を置き十年を超えたました。

今日の日を迎える事が出来ましたのは、土地改良に携わっている諸先輩の方々のおかげだと思います。

十という数字にするとともに長い期間だと感じますが、自分にとっては、あつと言う間に感じられます。まだまだ短い期間ではあります。まだまだ短い期間ではあります。ですが振り返りますと、財務課、経理課を経て、今年度また財務課に配属になり最初は、全く土地改良という仕事が何かもわからず毎日緊張そして勉強の日々の連続でした。無知なりまして、今思い出しても頭が下が

る思いです。

安積疏水土地改良区 細谷宣明

當時財務では、賦課令書が手書きの時期になりますと令書を書いていました。自分が居た時期は、手書きからプリンターでの印刷への転換期で疏水の組合員のデータの入力、また印字の流れ、書式の確立などを決める為に何度も課で会議をした事を覚えていています。財務というチーム一丸となつて築き上げたものが、今現在の賦課令書に反映されているのだなと思うと嬉しく誇らしくも思えます。経理に配属された時も自分は、全くと言つて良いほど右も左もわからない状態で最初の一年は、がむしゃらに目の前にある仕事をこなすだけでした。当時の上司の方々に多々ご迷惑をかけてしまいましたが、支えて頂きました。ありがとうございます。今年度、財務に戻つてきました訳ですが、今こうして居ることが出来るのは、周りの方々にお世話をありがとうございます。まだまだ若輩者ではあります。まだまだ若輩者ではあります。ですが、この十年の業務で培つた色々なものを、今後どの課に配属されたり支えて頂いたからと感謝しております。今後とも宜しくお願ひ致します。

平成九年～十四年 長友地区
五十五ヶ
平成十二年～十七年 白岩地区
二十五ヶ
平成十六年～二十二年 大野一地
三十七ヶ

第33回

全国土地改良大会 ~長崎大会~

「伝えよう 水の音色 土のぬくもり 里の安らぎ 西端(にし)の風にのせて」

平成22年10月26日(火)午後1時より、長崎県島原市の島原復興アリーナにおいて第33回全国土地改良大会が開催され、全国から約3,500名の土地改良関係者が集い農業農村整備の重要性とそれを支える農業農村整備事業の役割を広く国民にアピールするとともに、新たな視点に立った農業農村整備事業に展開を図ることを確認しあった。



式典では、水土里ネット長崎宮本会長が開催県を代表し「新たな食料・農業・農村基本計画の中で、食料自給率の向上を国の責務として食料を安定的に確保することを掲げ、農業農村整備事業は戸別所得補償制度を支えるための重要な役割を担うものである。農業・農村をしっかりと未来に引き継いでいくことが重要である」と挨拶した。

続いて、全国水土里ネット野中会長が主催者を代表し「長崎は、異国文化と日本文化が行き交う出会いの地であり、融合した文化の発信の地であった。また、諫早湾干拓事業は、農地の狭い長崎では必要な事業であり、現在では干拓地という特性を活かし、大規模な生産性の高い、環境にも配慮したすばらしい農業を進められていると伺っている。このような農業を次世代農業の指標となるよう務めなければならない」と述べた。

このあと土地改良事業功労者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰13名、全国土地改良事業団体連合会長表彰48名に表彰状と記念品が授与された。本県からは、吉田昭一山都町土地改良区理事長が「農村振興局長賞」、小室康彦中島村土地改良区前理事長(故人)が「全国土地改良事業団体会長表彰」を受賞された。

次の第34回大会は、平成23年10月26日(水)宮城県仙台市「夢メッセみやぎ」をメイン会場に開催予定。

土地改良事業功労者表彰

☆農林水産省農村振興局長表彰

吉田昭一氏

山都町土地改良区理事長



山都町土地改良区吉田理事長

小室康彦氏

☆全国土地改良事業団体連合会長表彰

中島村土地改良区前理事長



中島村土地改良区小室前理事長(故)の代理で賞を受ける土地連茂木専務(後列右から3人目)



表彰される吉田理事長(中央)



大会会場

支部だより



県中支部

にった
新田

よしこ
能子

新田 能子 様より
新年明けましておめでとうござい
ます。

県中支部にお世話になり、あつと
いう間の一年が過ぎてしまいまし
た。まだまだ至らぬ点ばかりですが、
本年もどうぞよろしくお願ひいたし
ます。

さて、平成二十二年十月十四日か
ら一泊二日で農業農村整備事業県外
視察研修を実施したので報告いたし

川土地改良区」
理事長 高橋龍一様、課長 木村
信一様より下記について説明をして
いただき、現地視察をさせていただ
きました。

内容は

- ・地域住民とともに築く土地改良施
設の利活用と維持管理について
- ・寒河江川下流地区グラウンドワー
ク手法を活用した取組みについて
- ・21世紀創造運動の取組みについて
- ・グラウンドワークとは、地域住民・
行政・企業が協力して、身近な地域
の環境を改善していくことで、二の
堰（二の堰親水公園）は公園が完成
したことにより、地域住民の管理意
識も高まり、グラウンドワーク活動
の先駆けといえる施設です。
- ・現在二十二団体が年二～三回程度
の自主活動で行われており、夏には
住民による「水辺の夜会」水上コン
サートが開催、あわせて改良区では
灯籠流しを実施しているそうです。

農地・水を有効に使うことが必要、
寒河江川土地改良区（本地域）が農
地・水の将来形と思う。
と話されており、職員の方々の意識
改革を図つておられたり、地域住民
が自ら施設管理を行つたりイベント
を実施したり、今後のハード実施の
ための参考にもなり、すばらしい施
設でした。

二日目は同県鶴岡市の農業生産法
人「窪畑ファーム」を視察しました。
内容は

- ・農商工連携について
- ・農業参入までの経緯
- ・地域農家とのかかわり

もう一ヵ所のグラウンドワーク高
松堰では、管理道路を通学路として
利用するようになつたことから、施
設への地域住民の関心が高まり、
八〇〇戸五集落で年二回管理してい
ます。ここでも魚つかみ大会や、
チューブスライダー、安全柵になつ
ているウコギで作つたおにぎりを配
るなど、多彩なイベントで地域住民
が参加しています。

他にも、ウォーキングやため池祭
り等もあり、河北町では十八組織に
よる農地水も実施しています。

高橋理事長様より

農地・水を有効に使うことが必要、
寒河江川土地改良区（本地域）が農
地・水の将来形と思う。

その他、露地栽培も加工可能な野
菜（サツマイモ・ジャガイモ他）を
作付けしたり、アニス農法の栽培土
を地域農家にレンタルし作付けして
もらい、加工販売するために全量買
い取るなどして生産されています。

栽培土は、菌のみを購入し山本組
で大量生産をしており、今後は土の
販売・栽培技術の指導等での活路を
探つていているとのことでした。

さて、直売所「ファーマーズマル
シェ」視察では

- ・生食トマトの販売、加工物が非常
に多い（ジュース、乾燥もの、レ

業種で最初は農業に詳しい人材確保
等で苦労されたようですが、たまた
ま見た新聞からトマト栽培（アニス
農法・微生物の力を利用した土作り
を行い、化学合成農薬を使わない）
にたどり着き、今では加工技術も一
緒に身につけトマトジュースやレト
ルトカレー、乾物として商品化し直
売所を設け（建築は山本組）販売、
ネットでの販売もするまでに至りま
した。

その他の、露地栽培も加工可能な野
菜（サツマイモ・ジャガイモ他）を
作付けしたり、アニス農法の栽培土
を地域農家にレンタルし作付けして
もらい、加工販売するためには全量買
い取るなどして生産されています。

栽培土は、菌のみを購入し山本組
で大量生産をしており、今後は土の
販売・栽培技術の指導等での活路を
探つていているとのことでした。

さて、直売所「ファーマーズマル
シェ」視察では

- ・生食トマトの販売、加工物が非常
に多い（ジュース、乾燥もの、レ

業の減少により業績も減少し、雇用
維持のために何かしようとしたとき
に、ちょうど仮登記農地を抱えてお
り、そこを利用し四年前に農業参入
を考えたそうです。しかし全くの異
業種で最初は農業に詳しい人材確保
等で苦労されたようですが、たまた
ま見た新聞からトマト栽培（アニス
農法・微生物の力を利用した土作り
を行い、化学合成農薬を使わない）
にたどり着き、今では加工技術も一
緒に身につけトマトジュースやレト
ルトカレー、乾物として商品化し直
売所を設け（建築は山本組）販売、
ネットでの販売もするまでに至りま
した。

その他の、露地栽培も加工可能な野
菜（サツマイモ・ジャガイモ他）を
作付けしたり、アニス農法の栽培土
を地域農家にレンタルし作付けして
もらい、加工販売するためには全量買
い取るなどして生産されています。

栽培土は、菌のみを購入し山本組
で大量生産をしており、今後は土の
販売・栽培技術の指導等での活路を
探つていているとのことでした。

さて、直売所「ファーマーズマル
シェ」視察では

- ・生食トマトの販売、加工物が非常
に多い（ジュース、乾燥もの、レ

トルト食品等)

・ジュースのみ直営加工、その他は委託により実施している。

・施設用地については、山本組所有、造成建築も山本組

・トマトについては、同農法により生産された地域農家より納品されている。

・軽食も実施している。

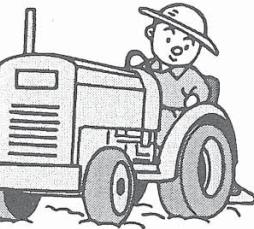
トマトについては、同農法により生産された地域農家より納品されている。

・トマトについては、同農法により生産された地域農家より納品されている。

平成二十三年、皆様にとつて良い一年でありますようお祈り申し上げます。

今後、当管内においても今回の研修で得たことを活用していただけます。

平成二十三年、皆様にとつて良い一年でありますようお祈り申し上げます。



平成二十三年、皆様にとつて良い一年でありますようお祈り申し上げます。

今後、当管内においても今回の研修で得たことを活用していただけます。

平成二十三年、皆様にとつて良い一年でありますようお祈り申し上げます。

会員の皆様には、いつもお世話になつております。

近年NHK大河ドラマの話題がもてはやされております。

昨年は「龍馬伝」でしたが、現在の日本を取り巻く環境は、経済不況の中での政権交代を経て一年、国内での様々な問題や領土問題、世界的な経済連携と、極めて厳しい状況になります。

『日本を今一度せんたくいたし申し候。』日本の行く末を案じていた坂本龍馬が現在の日本へタイムスリップしたならば、このセリフをもう一度、口開いたことでしょう。

さて、ご承知のとおり、平成二十二年「土地改良事業」の大幅な予算削減に始り、米価の下落による農業者の大幅な減収、さらには追い打ちをかけるかのように、環太平洋連携協定【TPP】参加の検討と、農業を取り巻く環境は、より一層厳しい状況に追い込まれています。

【TPP】とは、Tはトランスで、越えてとか、向こう側。Pはパシフィックで太平洋。Pはパートナー・シップで友達。

簡単に言えば、太平洋を囲む国同志で、関税などを無くして自由に貿易や投資をしようというグループです。(原則すべての物品で輸入品にかかる関税の撤廃を掲げている。)

現在は、シンガポール、ブルネイ、マレーシア、ベトナム、ペルー、チリ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ(平成二十一年十一月オバマ大統領参加表明)と九ヶ国で交渉を始めており、二年前の世界的な経済危機(リーマンショック)の反省として、強い国際競争力を身につけています。

日本は、日本の農産物が価格で外国にかなわないということは、まず売り上げが減少します。

その額は四兆一千億円の減少額と見込まれています。

農業生産は気象や土地条件などに左右され、競合のための規模拡大や効率化には限界があります。

農業担い手の高齢化や耕作放棄地が増加しているなかで関税撤廃を行

で、チリは銅などの資源があるといふように比較的小さな国同士で、得意分野が重ならないから、貿易を自由に出来ればお互いの国にないものを補えます。

では、日本はどうなの?ということがあります。

日本においては、自動車や電気製品などを輸出する企業は、関税がなくなければ製品を今より安く売り込めるので基本的に賛成しています。

問題なのは、農産物です。

例えば日本に輸入される米には約八〇%の高関税をかけて、安い外国米の流入を阻止しています。

TPPに加入すれば関税は『ゼロ』となり大量に安い農産物が入って来ます。そうなれば、日本で作るものには値段ではかなわない事が心配されています。

日本の農産物が価格で外国にかなわないということは、まず売り上げが減少します。

その額は四兆一千億円の減少額と見込まれています。

農業生産は気象や土地条件などに左右され、競合のための規模拡大や効率化には限界があります。

農業担い手の高齢化や耕作放棄地が増加しているなかで関税撤廃を行

なれば、離農者の増加、水田が持つ多面的機能や食料の安全も失われる事にもなります。

ですから【TPP】に参加するなら、どうやって生産効率を高め競争力を強化していくか、五年十年の間に農産物価格を国際競争力に耐えられるよう国内農業の環境づくりが必要になってしまいます。

何かを成し遂げようとする時は、「痛みなくして、得られるものは、ない。」と言いますが、日本の農業も「守り」から「攻め」へと農業改革転換を求められる時期にきたのだと感じています。

平成22年度農業農村整備事業研修の報告

会津地方は、米単作地帯にあつて、性化しようと「農業・開国両立論」と公言した菅首相ですが、農業の大転換をするには、農業者の意識も大切ですが、政府には安心して農業が行えるような政策の指向性を示して欲しいと切に思います。



会津支部

永嶋千代子

の活動につきましては、補助事業もフルに活用しながら、小水力発電の取り組みやバイオマス事業の取り組み等、様々な先進的取り組みを積極的にを行い、土地改良区人件費農家負担を十四%に抑えるなど、すばらしい運営をされております。また、日頃の運営にあたって、土地改良区の仕事への地域住民の理解を得ることが大切であり、施設管理にあたつての住民参加を促すためにもPRすることの重要性を説いていました。当管内の土地改良区において、その全てを取り入れることは難しいと思われますが、今後、農林水産省の予算も厳しい状況の中、経済産業省、環境省など環境問題やエネルギー問題等とリンク（連係）しながら、新たな視点を持つた運営も大切になってくるのではないかと考えます。そのような状況下、水土里ネット那須野ヶ原星野恵美子事務局長さんは、平成二十一年七月福島県新エネルギー詳細ビジョン策定委員会委員に就任され、月一回の割合で新エネルギー会議に出席され、土地改良区の必要性・果たす役割・土地改良区のフィールドに存在する自然エネルギーの活用等について講演するなど、既に新しい視点に立ち、土地改

良区運営に取り組まれております。また、用水のみならず排水管理も行うなど、地域への貢献をしていることをPRして、地域の協力を得ながら施設管理ができるような体制を整備していくことも大切なことだと思います。

研修2

J.A.ファームサポート代表

取締役社長滝田国男さんの取り組みは、現実の農業の抱える問題の解決法の一つとして動き出し成果をあげているものと思います。

このような先進事例においても、農業生産物からの収益性はまだまだ低く、主要作業の委託料が主な収入になつていいようです。農の衰退は社会の衰退にを掲げ、農業の現状と課題を見据え、集落営農による機械投資の抑制・集団化による省力化・若い年代への負担軽減等目標とする農業経営を推進し、その中で収益を確保するためには利益率の高い経営が必要であることから、農業全般の改善と作業の効率化を図つていまします。また、表郷いいもの開発協議会会長をされ、お酒などの商品を開発し、販売を始めて収益性の向上を目指し、地元の消費拡大をねらいとした活動もされております。このよう

六次産業化の取り組みがますます必要かつ重要になつてくると思われます。

研修3 経営体育成基盤整備事業長
峰地区におきましては、ほ場整備事業による生産基盤の整備は、経営体の育成を含め今後の農業のあらゆる変化に順応するためにも必要なものと考えております。平成二十三年度の農村整備事業予算是大変厳しく、その中で何が出来るかを考え取り組まなければならぬと思います。
特に農業水利施設のストックマネジメント事業などは大きな課題であると思います。会員の皆様、新規地区の抑制等大変厳しい状況とは思いますが、今般の研修が参加者の皆さんに少しでも勉強となり、会津の農業・農村創りにお役に立てばと思いまます。

二日間の研修誠にご苦労様でした。

佐藤 慎子

とができ、とても有意義な時間を過ごせました。また、その後の情報交換会では、初期職員の研修という事で、初対面の方ばかりで緊張しましたが、同じ仕事に取り組んでいる同士だけあって、自然と話し合うことができました。

この研修会に参加して、私は、参加された職員の皆様から、仕事のノウハウや楽しみ方を教えて頂きましたが、自分は、何も与える事ができなかつたように思います。これからは、「共育」の研修会を目標に参加したいと思います。

とができ、とても有意義な時間を過ごせました。また、その後の情報交換会では、初期職員の研修という事で、初対面の方ばかりで緊張しましたが、同じ仕事に取り組んでいる同事だけあって、自然と話し合うことができました。

鹿沼市) ① 土地利用型農業の経営について

付加価値を加えた加工生産物の開発について

・ 生産販売について

(2) 現地研修

を、研修致しました。

「霞ヶ浦用水土地改良区」につきましては、霞ヶ浦用水土地改良区の会議室において、常務理事伊藤幸平様よりご挨拶をいただき、引き続き、振興課長高橋博様より説明をしてい

今年度は、茨城県及び栃木県の農業農村整備事業について、
一、霞ヶ浦用水土地改良区（茨城県
下妻市）

① 高品質米生産運動について
② 水田の有効利用について
③ 施設の維持管理について
④ 現地研修

課長補佐佐福田朗様より説明をしていただき、担当者の方々にもご出席いただいて質疑応答、現地視察等が行われました。どの視察先でも担当の方々の熱意あふれる親切丁寧な説明があり、参加者の方々も熱心に質問するなど、意見交換が行われ、とても有意義な研修であつたと思います。参加していただきました皆様に

は、いろいろとお世話になりました。

本当にありがとうございました。

当支部では、平成二十二年九月六日(月)～九月七日(火)開催の相双地方土地改良区事務局長連絡協議会の先進地視察研修にも協賛致しました。

研修内容は、
① 信濃川左岸土地改良区

② 土地改良施設の維持管理について
③ 大規模地震災時の対応について
④ 現地視察

でした。県職員、土地改良区事務局長(参事)、職員等十三名の参加で



実施致しました。

また、平成二十二年十二月二日に

は、相双方面土地改良団体職員連絡協議会研修会が、マリンパークなみえ(双葉郡浪江町棚塩)で、開催されました。

研修内容は、
① 「農業農村をめぐる諸情勢について」

相双農林事務所 農村整備部長 柳田 敏雄 氏

② 「法第132条検査における主な指導事項について」

相双農林事務所 企画部 指導調整課主任主査

渡邊 重勝 氏

③ 「維持管理計画書の作成について」

水土里ネット福島 農地建設課 課長 佐久間 茂 氏

④ 「未収賦課金の対応について」

水土里ネット福島 企画指導課 課長補佐 菊地 勇一 氏

でした。管内会員の職員等二十六名が参加致しました。その後の情報交換会におきましても、多数のご参加ありがとうございました。

これからも、各種研修会を企画して参りますので、会員の皆様におかれましては、ぜひ、ご参加下さいま

すようよろしくお願い申し上げます。

続きました。鹿島町土地改良区に

ついて、事務局長藤沢正美様よりご紹介致します。

鹿島町土地改良区

旧鹿島、真野、上真野、七千石、北屋形勘判、裏八沢の六土地改良区

が昭和四十三年四月一日に合併、同年四月二日付知事の認可を得て正式に現在の鹿島町土地改良区が成立了。

ほ場整備事業

改良区成立以降、県営ほ場整備事業鹿島第一区(事業量三八一・〇六ha、事業費五億一千万、S43～S48)、県営ほ場整備事業鹿島第二地区(S49～H6)、農村活性化住環境整備事業寺内地区、上寺内地区、小池地区(H5～H16)と三十年以上もの間、大型事業に取り組んできました。

団体営等の事業も含め多くの事業に取り組んでいた時代には町(旧鹿島町)からの出向を含めて十五人もの職員で運営してきました。

工事と換地で成り立つほ場整備は古くは裁判にまでいったこともありま

す。まだまだ土地の財産価値、農家にとつて農地に拘った時代です。

そうした事業に関与して思うのは人間関係の難しさです。シユミレー

ション出来ない工事の良し悪しは設計側、施工側と申請側(受益者側)

されます。財産管理を担う換地もまた換地委員と権利者との人間関係です。ただ人間の思いも時間が净化するのでしょうか、事業の成果はやはり長い時間の中で評価されるのでしょう。

しかし、事業中心で運営してきた結果、事業を実施した人達の子供世代の組合員の中には「土地改良区は何のためにあるのか?」とか「賦課金は何のために払わなくちゃならないの?」といった方も多くなっています。

いま土地改良区は?

改良区は、事業が完了した現在、組織のあり方が問題になってきていました。事業華やかなりし頃を懐かしくしている場合じゃない。「事業が無ければ解散すれば!」の声も無いわけではありません。中で、今の農業情勢に新たな組合員負担を強いり事業を立ち上げるのは容易なことではありません

ます。

ん。

これからは土地改良施設の維持管理では、とよく言われますが、施設には連綿として、数多くの溜池、堰、揚水機場そして農業用水路を維持管理してきた水利組合という利用組合組織の歴史があり、その組織と今後向き合っていかなければなりません。

そうした頃に農地・水・環境保全向上対策がスタートすることになり、今、私たちの土地改良区は活動組織と一緒に施設の維持管理に取り組んでいます。



茂木 功一氏

講演①「132条検査について」

いわき農林事務所 佐藤善江氏

講演②「維持管理計画書の作成について」

土地連 佐久間茂氏

講演③「賦課金の滞納処分について」

土地連 菊地勇一氏

講演④「地域農業水利施設ストックマネジメント事業について」

土地連 佐久間茂氏



②平成22年10月14日(木)、15日(金)

農業農村整備事業先進地県外研修

参加者31名（土地改良区役職員・県農林事務所・いわき市）

1日目訪問先

新潟県上越市「吉川土地改良区」

室内研修

土地改良区の運営状況、施設の維持管理、ほ場整備事業の取組み

現地視察

農地環境整備事業地区、竹直生産組合（大豆・みそ加工所）

よしかわ杜氏の郷

2日目訪問先

新潟市白根排水機場「白根郷土地改良区」

室内研修

施設の維持管理、排水機場の仕組み

現場見学

白根排水機場内視察

①平成22年5月27日(木)

福島県いわき地方農業土木促進協議会総会

参加者26名（土地改良区理事長・県農林事務所・いわき市）

講演「農業農村整備事業関連予算について」

講師 福島県農林水産部次長
松浦 幹夫氏

講演「土地改良区の役割と方向性」

参加者28名（土地改良区職員・県農林事務所・いわき市）

修会

③平成22年11月25日(木)

いわき方部土地改良区関係職員研修会

参加者28名（土地改良区職員・県農林事務所・いわき市）

「今までの研修先を振り返つて過去の研修地を振り返ると親近感とはかけ離れたような研修だったと思います。

というのは、いわき管内土地改良区の大規模の受益面積と組合人数、国営事業や最新システムを搭載した

施設管理、ダムなど、参加者も数回訪れたこともあるような大きな土地改良区研修を毎年訪れていました。それは非常に勉強になり、復命書の記録に残っていますが、記憶に残つた研修ではなかつた気がいたしました。しかしここ数年、いわき管内の実情にあわせた研修内容として視点を変えてみました。特徴として、受益面積が小規模でかつ職員が数名で運営していること、あらゆる事業等に率先して取り組んでいるといった視察先にしてからは、自然と参加者の反響も良くなりました。

そのような条件での研修でありますので、研修室は小さく、お手洗いも一箇所しかないなど多少不便さもありますが、かといつて居心地も悪くなく、堅苦しくない環境です。訪問先の理事長さんの「ようこそおいでくださいました」から始める少しまなりの入った紹介と世間話を軽くはさめながら進めていく研修は、何とも心地よく、遠方からきた疲れがフッと軽くなるものです。

以前のようなピッタリ終わる行程どおりの研修と比べ、いまは時間を忘れて、参加者が熱く質問をしている光景が見受けられます。「宿舎に着くのは遅くなるだろ?」と時

計を見てあせる添乗員と事務局ではあります。(笑)改めてこの研修内容にしてよかったですと痛感いたしました。

記録に残つていますが、記憶に残つた研修ではなかつた気がいたしました。しかしここ数年、いわき管内の

実情にあわせた研修内容として視点を変えてみました。特徴として、受益面積が小規模でかつ職員が数名で運営していること、あらゆる事業等に率先して取り組んでいるといった視察先にしてからは、自然と参加者の反響も良くなりました。

そのような条件での研修でありますので、研修室は小さく、お手洗いも一箇所しかないなど多少不便さもありますが、かといつて居心地も悪くなく、堅苦しくない環境です。訪

問先の理事長さんの「ようこそおいでくださいました」から始める少しまなりの入った紹介と世間話を軽くはさめながら進めていく研修は、何とも心地よく、遠方からきた疲れが

フッと軽くなるものです。

たいくらいであります。

参加者のニーズに沿つた研修地を

支部担当と探すことは容易ではあります。とくに農業用地・畠などの現

地視察は農業者向きの研修だと思いま

す。昨年のハウス栽培の視察にお

いては「この野菜どうしたらこんな

風になるんだい?」と栽培者に興味

深く聞く人、「おれの作った野菜の

方がもつとええわ」とライバル心

を燃やす人、研修で知り合つた同士

たわいもない会話や栽培に関する情報

を熱く語っている方達の姿を見て、

これが皆求めている研修だと強く実

感しました。

このことから、堅苦しい雰囲気の中で長時間拝聴する研修より、現地の方と活発な意見交換をする、現場を目で確かめる、そして帰宅した際「こんなことがあつだなあ」と振り返つてもらえる、それが記憶に残る研修なのだと感じます。

私たち事務局は、意見の飛び交う環境を提供していくことを役目とし、今後農作業全般を取り入れた内容や、農業経営に力を入れた団体等の視察も視野に入れ、検討していく



18 ホールでの様々な出会いに感謝し、元気に楽しく周ることに感謝をしている。

スキー・野球など格闘技的な要素のある世界もエキサイティングで魅力的だが、自己認識・啓発的因素が大変高いスポーツ（ゴルフ）は、日

昨年からゴルフに行く機会に恵まれ楽しく運動をさせていただいている。

まさしく小さな政府、地域社会がそれぞれの特性、地域性を活かした現場の再生こそが手始めになされなければならぬと感じる。

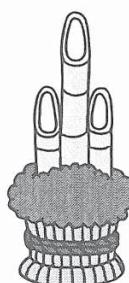
地域の特性とは取りも直さず、地域資源で、田畠を含めた土地改良財産であり、それらの維持、さらには

「地域を活かす地域循環 生産と消費の相互信頼」

水土里ネット猪苗代
高 橋 二三雄



年男・年女



常生活に萎えそうな五感を刺激的に満たしてくれる、質感が異なるスポートだと感じる。

さて、世界を徘徊する不況ムードは、経済社会の終焉を予期するがごとく、私たち（特に一次産業に従事する）から夢と希望を奪っていく。

日本のGDPの五パーセントに過ぎない農業生産はTPPの犠牲も止む無しの大蔵発言があつたが、今まで築き上げた地域農業（日本の文化）を灰燼に帰すのはあまりにも節操が無さ過ぎるし、国民の合意も得られるとは思えない。

地域からの変革をはじめなければ全てが瓦解の一途を突き進む事になる。



それらを活かした生産なのではないだろうか。それなしで再生は論じ得ないとと思う。

組織目標の再構築とそれとの連携

によりベクトルを見出し、土地連等が上手にネットワークを組み上げ地

域消費者と生産者がよりよい循環を構築することが喫緊の課題だと思う。

今日までは対消費者に対し多面的な機能をアピールしてきたが、これからはそれらの活用による生産、流通、消費を地域の中で議論を深め、安心・安全の生産とそれらを食べ支える消費者（農家を含む）の地域連携を構築すべきだと思うのですが。

私は今まで年男について意識したことばは無く、年男と聞いて定年までわずかと痛感しました。

思い返せば、昭和五十三年に大熊町土地改良区に奉職し、農家受益者・職場及び関係者の皆さんのが支えの下、間もなく三十三年が過ぎようとしています。

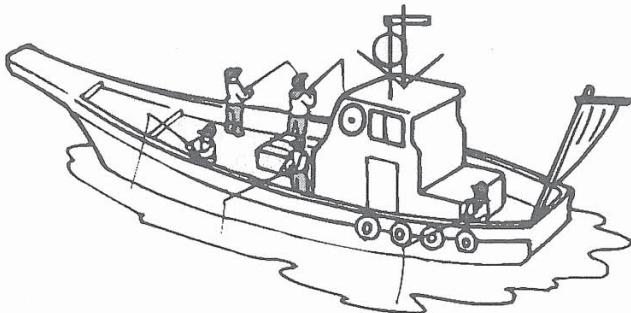
私が土地改良区職員になった頃は、基盤整備事業が最盛期であり、日々受益者への説明及び工事現場の管理等の毎日がありました。時が過ぎて、現在は基盤整備及び水利施設等の整備済箇所の維持管理を中心に行っています。

5回目の年男!?

大熊町土地改良区
杉 内 憲 成

なもので「キレが無くなつた。情けない。」と痛感することが大変多くなつてきたような気がします。

私個人としては、時間の許す限り太平洋に出かけ糸をたらして浮を見つめることが出来る、理解ある妻にも恵まれ休日には釣り仲間と釣りを、また、私を育ててくれた土地改良事業という出会いのおかげで得た人脈と今年は昨年よりも進化する心と実践を楽しみ、公私とも自分が後悔しない結果を一つでも多く残せるような一年にしたいと思います。



月日の流れは早いもので、昭和四十六年本会に入会以来四十年の歳月が経過しようとしています。当時は、そろばん、計算尺、関数表の時代で、唯一計算機と言われるものに、手回しのタイガー計算機がありました。

設計、積算の作業中はチンジャラチンジャラと計算機を回す音が事務室に鳴り響いていた記憶があります。

測量も平板測量が主体で、特に現場整備等の平面測量では何日も現場に出て、平板からの逆反射で、顔の裏表がわからないほど真っ黒になつていました。

激動の勤続40年を顧みて

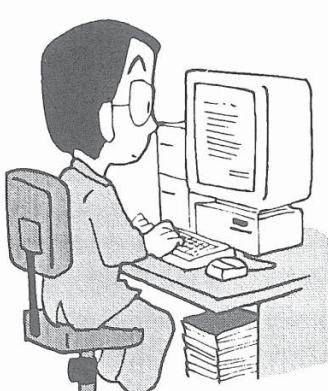
水土里ネット福島
坂内 隆芳

あれから四十年、この間の技術の進歩といいますか、アナログからデジタル化への変遷は一口では言い表せない程の急激な変わりようだと思っています。特にアナログ時代に育った私にとっては、苦痛でもあり、便利なようでもあり、何か複雑な思いがあります。勿論デジタル化はスピード感、正確性、情報の整理・集積等では抜群の機能を持っていることは確かなことではあります。

これからは、デジタルの機能と、アナログ的な感性の調和を図ることも大切ではないかと思う今日このごろです。

この四十年間本会に勤務させて頂き、本当に貴重な経験をさせて頂きました。最初の十五年はほ場整備事業、その後の二十年は農業集落排水事業と大きく二つの分野で仕事をさせて頂きました。最近は、農業用の水利施設の維持、補修等に関わっておりますが、日本の農業水利システムのすばらしさに驚かされておりまし、この水利システムの基礎を創り上げてきた先人の、二〇〇〇年にもわたる知恵と労力の投資に敬意を表するとともに、絶対、将来に亘り引き継いでいかなければならぬものであり、他の国にはない日本の最

も優れたシステムである思っているところです。（一致団結頑張ろう）会員の皆様にはこの四十年間大変お世話になりました。この場をお借りし厚く御礼申し上げ結びと致します。



硬膜下出血の時は、これはダメかなと言う感じがして、家内に内緒にしていたヘソクリの在処をメモ用紙に書いたものである。この年(?)になつて抱負等と言う、あまり余計な目に遭う状態になつてゐる。

二〇一〇年は散々な一年であつた。六月末にリンゴの摘果作業のとき脚立より落下して慢性硬膜下出血(本当は急性?)を引き起こした。また十月にはまたもや脚立より落下して脇腹を嫌というほど打つたことにより、約一ヶ月以上(四十日程度)痛みが取れず苦しんだ(今も時々激痛が襲う時がある)。最近年のせいか!体の動きが本当に鈍くなり危険な目に遭う状態になつてゐる。

今思うこと

会津宮川土地改良区
佐藤正雄

なものは考えずに、如何にしたら健康で日々を過ごせるか、そのためには何が必要なのか何をすべきなのかを考えることにした。これも立派な抱負であると考える。人間健康であればある程度のことは出来るが、体が思うようにいかないと何事にも消極的になつてしまふ五体満足これが一番である。

出会いは財産

阿賀川土地改良区
斎藤昌教

今年の年男と言うことで「むつみ」の寄稿依頼があり、何を書いたらいいのか思いつきませんでしたが、「年男」と言う文字を見たとき、土地改良区に採用されてから何年になるのかと考えていたら、十年が過ぎよう

としています。その間、公私共にいろんな事がありました。

まずは、仕事について振り返ってみたいと思います。採用当時は、主に頭首工の管理から始まり、毎日、除塵作業と草刈り業務でした。その間覚えた事は、「刈払い機の操作」と「維持管理の大切さ」でした。操作を覚えた事により、我が家のかまぼの草刈りを行うことになり、いまだに続いています。「現場」という業務を体験し、その後、ほ場整備事業や維持管理事業、会計業務に従事することになりました。業務内容が多岐に渡つており、悩んだ時期もありました。しかし、多くの方々と出会い、多くのアドバイスを頂き、助けられた記憶があります。そこで感じた事は、「友(出会い)は財産」ということです。

今日の改良区は少数精銳であり、新規採用もなく改良区の平均年齢も高めです。そんな時、土地連会津支部より、研修企画の話があり、「採用年数が浅い職員だけの研修を開催してみては?」と言う要望を出したところ、企画が採用され、二回程実施されました。会津地方には、多くの若い職員があり、この研修を通じて、「悩みや将来のビジョン」また

は「お互いの信頼関係」等が築かれ、大変有意義な研修だと実感していました。やはり、一人よりも二人、三人と知恵を出し合えば、自分自身もスキンアップ出来るし、お互いに良いのではないでしょうか。年齢等が近いと会話しやすいのも事実です。次に、私生活について振り返ります。改良区に採用された頃は、独身でしたが、数年が経過し、結婚し娘も誕生しました。現在は、育児に奮闘中です。これまた、出会いは、大切にしたいものです。どこにどんな出会いが転がつていてかわかりません。「家族」ができたことにより、私生活もだいぶ変わりました。一番の変化は、自分自身のモチベーションです。帰宅後は、楽しい育児が待つてるので、就業時間内に業務を終わらせようと努力しています。

これからも「人と人とのおつきあい」を大切にし、楽しく健康に留意しながら仕事に励みたいと思いま

年男になって思うこと

磐城小川江筋土地改良区

矢吹英信

「最近あつという間に年が経つ」と誰かが話したら、年の経つのが早く感じられるのは年齢に比例すると理事長から教わりました。まさしくその通りで、子供のころは何事も新鮮でいろんなことに興味があつたので一日、一年が長く感じられ、大人になると、毎日同じようなことの繰り返しで、マンネリの生活になつてしまふので早く感じられるのでしよう。

ということでおつとめに四回目の年男です。さすがに前回の年男のときは肉体的に大きく変化を感じております。以前着ていたスリーブはまったく入らず、横に育つてお

ります。まだ生活習慣病までは至っておりませんが、このままでは時間の問題かと思われます。精神的にはどうでしよう。成長したかどうかはなはだ疑問です。これから肉体的には衰えていくのは当然ですが、せめて精神的には充実させていきたいと思います。武道の達人は五十まで基礎を学び五十を越えてから本当の修行に入ったといつています。「六十で足腰が衰えると心を働かせる修行をし、七十で体全体が弱ると心を動かさない修行をし、八十では心は動かなくなつたが雑念が入るので雑念を入れないよう修行をしている。」肉体の衰えは止めることが出来ませんが、気の充実は年齢とともに高めていく様子です。締め切り当日にあわてて原稿を書くような怠け者は難しいでしようが、いつデットラインが来ても良いように一日を大切に過ごして生きたいと思います。皆さんにとりましても良い年でありますように。



矢吹原土地改良区職員、主事職の拝命を受け早くも八ヶ月が過ぎました。慣れぬ業務と不慣れな受益地地理状況を克服すべく、奮闘する毎日を送っています。

私こと酒井勇司は、公安職退官を機会に当改良区に就職しました。職場環境の劇的な変化が障つたのか、採用当初は体調不良が続きこれが原因で集中力が散漫し、上司先輩方のご指導を吸収する事が出来ず迷惑をお掛けする事も多々ありました。私のこのような状況下にもかかわら

決意表明！

矢吹原土地改良区
酒井 勇司



経験が浅い私の現在の事務管掌を紹介します。事務管掌は非灌漑期と灌漑期とで二つに分かれていますが、前者で行う主な事務は、直近上司の土地改良施設他目的使用に関する事務補助と社会保険に関する事務であります。後者につきましては、農業用水を各組合員へ供給する現場事務と衛生管理者としての労災防止業務に従事しております。未だに慣れぬこれ等の業務ではありますが、一日でも早くものにできる様、精進する所存であります。

矢吹原土地改良区職員、主事職の拝命を受け早くも八ヶ月が過ぎました。慣れぬ業務と不慣れな受益地地理状況を克服すべく、奮闘する毎日を送っています。

私こと酒井勇司は、公安職退官を機会に当改良区に就職しました。職場環境の劇的な変化が障つたのか、採用当初は体調不良が続きこれが原因で集中力が散漫し、上司先輩方のご指導を吸収する事が出来ず迷惑をお掛けする事も多々ありました。私のこのような状況下にもかかわら

ず、辛抱強く、かつ、温かくご指導下さいました上司には感謝の念が絶えません。

経験が浅い私の現在の事務管掌を紹介します。事務管掌は非灌漑期と灌漑期とで二つに分かれていますが、前者で行う主な事務は、直近上司の土地改良施設他目的使用に関する事務補助と社会保険に関する事務

「はじめまして」

水土里ネット福島
田中 拓

でも早く立派な矢吹原土地改良区職員となれるようここに決意表明して終わります。

最近では、食品の偽装問題がつぎつぎと明らかになるなど「食」を巡った話題には事欠かない状況が続いております。

初めまして、こんにちは。この度、福島県土地改良事業団体連合会に新入会員として農村整備部・測量課の一員として勤務することになります。田中 拓と申します。よろしくお願いします。新入職員として早九ヶ月が過ぎ、厳しい寒さが体に応える季節となりました。新入会員として寄稿の依頼を受けましたので、僭越ながら述べさせていただき

ます。

ご存じの方も多いとは思いますが、今や我が国では、食料の実に六割を農村では、高齢化や担い手不足の他に主要農産物の価格低落などの影響をまともに受けて農業経営がピンチに立たされています。

話は変わりますが、二市二町一村で展開する当改良区受益地は昭和の初期までは荒涼な台地であった歴史があります。この荒れた台地を是正すべく、創設されたのが羽鳥疏水であります。この羽鳥疏水が台地を潤し、水稻農業の発展に寄与し、福島県中通り有数の穀倉地帯となりました。先人の方の夢と希望を具現化した

大学生時代は農業土木の分野を主に学んでいましたので、その知識を生かし一農業人として日本の農業の発展に全身全霊で取り組む覚悟です。

さて、私が今の職務に就いてから約九ヶ月が経過しました。その中で少しずつではありますが、仕事にも慣れ農業、農村の抱えている課題や厳しい環境が分かって来るにつれ

でも早く立派な矢吹原土地改良区職員となれるようここに決意表明して終わります。

最近では、食品の偽装問題がつぎつぎと明らかになるなど「食」を巡った話題には事欠かない状況が続いております。

そこで、農業を支えてゆく立場にいる一員として責任感の重さを痛切に実感しております。

私は、大学時代に測量機器を使つての実習及び基礎学習はしていましたが、現場でしか養うことのできない「慣れ」や「勘」も重要な

であることを実感しました。それら

は現場での実践の積み重ねでしか習得できませんので、日々勉強のつもりで業務に取り組む所存です。どうぞ皆様今後ともよろしくお願ひ致します。

土地改良区職員として

安達疏水土地改良区

橋本 晴美

こんにちは。今年の一月より、安達疏水土地改良区で働かせていただいている、橋本晴美と申します。

職場で働き始めて十ヶ月が過ぎました。あつという間の十ヶ月でした。土地改良区がどんな仕事をしている所なのか、全くわからない状態できましたので、私自身も不安で、いっぱいでしたが、一から教えなければならぬ、事務局長も大変だったと思います。親切丁寧にご指導いたさながら、日々仕事に励んでおります。

土地改良区に来まして、まず、田んぼに使う水をポンプで揚げて、それも今まで見たこともないような大きなポンプで、何キロものパイプラインを通して水を送っているということを知り、驚きました。ここで水

の大切さを改めて痛感しました。そ

の水を組合員のみなさんへ送る為に必要な賦課金の徴収。またその為の施設の維持管理などの業務が、土地改良区の仕事であるということが、

この十ヶ月間で学んだことあります。私が学んだことは、ほんの一握りにしかすぎないことだと思いま

す。日々の業務を通して思うことは、土地改良区の運営をしていく上で、いろいろな問題があつたり、施設が

出来てから、長い年月が過ぎ、老朽化が進み、補修や改善が必要になつてきたりと運営も厳しくなつていく

土地改良区の職員となつて

会津若松市湊土地改良区

鈴木けい子

前任者の定年退職に伴う職員補充の募集により、この度ご縁がありまして、会津若松市湊土地改良区にお世話になることになりました鈴木と申します。

採用されてから一年五ヶ月が経ち、正職員となつてから八ヶ月になりました。

それまでの私の土地改良区とのかわりといえば、地元で一組合員の家族として、年に数回の賦課金を納めるだけのものでしたが、職員として働くようになつてからは、外からはわからなかつた業務内容の広さと奥の深さに驚き、毎日新しい出来事と出会いに刺激を受けています。

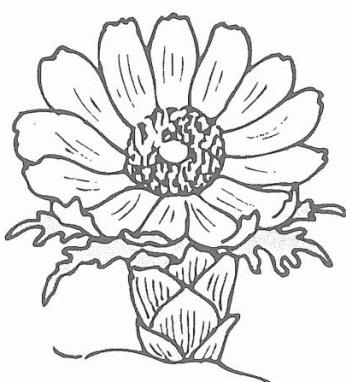
そんな中で、先日行われた会津水土里ネット初期職員研修会に参加させていただきました。研修会の中で講師の先生方のわかりやすく楽しい講演や、勤務十年未満の同じ立場の他の改良区の職員の方々との交流は私にとってとても大きな収穫でした。企画して下さった水土里ネット

福島会津支部の方々に感謝いたしました。

私は、会計の係として地域の皆様と接する機会が多いのですが、いつも基本を忘れず、ご不満があつて来られたお客様でも、笑顔でお帰りになられるように心がけていきたいと思っています。

これからも、先輩方のご指導を仰ぎながら、組合員の皆さんと一緒によりよい方向に進んで行けるように、そして一日も早く前任者に追いつけるように頑張っていきたいと思います。

まだまだ至らないところがたくさんあります。どうぞよろしくお願ひします。



活力ある農業、農村づくりをお手伝いします。

水土里ネット福島はみなさんのパートナーです!

農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業等は国及び県の補助事業として実施されるため、その調査・設計・施工には、関係機関との協議・調整の下、技術基準の適合性、経済性の説明が求められます。

本会は、この支援に長く携わっており、高い技術力と経験を備えております。今後とも、より一層の会員サービスに努めてまいります。

ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業においては、計画から実施設計、換地処分までを一体的な業務と捉え、技術支援を行ってまいります。

計画策定においては、換地計画を見捉え、権利者や関係機関との連携により、地域実情にあった計画樹立に努めております。

農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業においては、調査・計画・実施・施工管理・維持管理のすべての業務に一貫して携わり、経験豊富な高い技術力を備えた技術者が多数おります。

関係機関との連携の下、適切な処理方式の選定など地域の実情に即した提案に努めてまいります。

農地・水・環境保全向上対策や地理情報システムへの取り組み

農地・水・環境保全向上対策や地理情報システム(GIS)の構築など新たな事業に、これまでの技術や経験の蓄積を活かして積極的に取り組み、関係機関との連携の下、地域農業の発展や農業農村の振興に貢献するとともに、農業用排水施設の維持管理(ストックマネジメント)支援にも努めております。



水土里ネット福島の登録内容

- ISO9001:2008/JIS Q 9001:2008 (H22.2.16付、登録証番号JQA-QMA13143)
- 建設コンサルタント (H22.12.3付、建22第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所 (H19.4.9付、第11(904)1975号)
- 計量証明事業登録 (H7.7.3付、第環34号)
- 測量業者登録 (H22.9.7付、登録第(1)-032811号)
- 浄化槽保守点検業者登録 (H21.5.14付、福島県知事登録第1353号)
- 農業農村整備事業発注者支援機関認定 (H18.10.16付、第0606号)

(平成22年12月3日現在)



みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地

TEL: 024-535-0371 FAX: 024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail: info@midorinet-fukushima.jp